

～中世キリスト教民衆盡性における～

Moriri freres nos conve

ラウデーシによる モン

セラートの朱い本



演奏 **Laudesi Tokyo**

監修・指揮 **杉本ゆり**

2016年

11月5日 土

カトリック世田谷教会

井の頭線北沢駅南口下車徒歩5分
世田谷区北沢1-45-12
<http://www.catholic-setagaya.jp/>

午後3時開演 (2時半開場)

入場料 **3500円** (当日: 4000円)

予約問い合わせ先

yuri-francesca@nifty.com

電話/FAX: 0422-32-6074 (杉本ゆり)

ローマのアラ・チェリから、
アッシジのポルチウクラから、
モレーリヤの Sala de profundis から
フランシスコ会は登り行く。モンセラートへ。
栄光あるおとめマリアの歌は日本の地に弾圧を
超えて記憶され、

記憶はやがてよみがえる。

聖母の7つの御喜びは屹立する岩の間で日毎に
歌われ、巨大な落石さえ聖母の手が支えた。

御使いガブリエルの顔は輝き、

ルーゴの教会では被昇天の日亡病の女が癒され、

ガリシア中の鐘が叫び響き、

このように歌われる。

“全カトリック教会よ、天の住民よ、この日
喜び祝え！”

甘美で調和のとれた鐘の楽器が響き渡れば

ればならない。この日に

OLA FRATES NOS COLLE. MAS IN

ALMIPS UNORA DIA AÏST NIO NO POTUM

「モンセラートの朱い本として中世音楽愛好家にも親しまれている 10 曲の歌は、歌集ではなく、ベネディクト会士が司牧の手引きとするための大型の書物のごく一部で説教集や説話、神学論文などを含む様々な文書と共に所収されている。これら 10 曲の歌は言語も様式も出自もまちまちな楽曲の寄せ集めで舞踏を前提とした民衆歌謡が大部分を占める。この写本をモンセラート修道院で閲覧し、テキストを研究しているうちにこれはベネディクト会内で作成された写本でありながらフランシスコ会の影響を強く受けていることを感じ取った。

私は今まで誰も取らなかった方法、アッシジの聖フランシスコを座標軸とした写本へのアプローチを試みたい。10 曲目にあたる Ad mortem はモレーリャのフランシスコ会修道院の壁に描かれた死の舞踏図の下に俗語であるバレンシア語で、角型記譜法により原曲と思われる歌が書きつけられている。楽譜のまわりに書きつけられた言葉の断片を解読するにつれ、フランシスコ会のラウダとの平行現象を確信した。ゆえに今回のコンサートは中世後期におけるキリスト教民衆霊性史の脈絡のなかからモンセラートを捉えた構成とした。」 杉本ゆり

ラウデージによる

モンセラートの朱い本

～中世キリスト教民衆霊性における～

Morir ffreres nos conve

監修・指揮 杉本ゆり

演奏 Laudesi Tokyo

フィーテル 坪田一子

リコーダー 須藤みぎわ

リュート 佐藤重紀子

ゴシック・ハープ 名倉亜矢子

打楽器 曲淵俊介

ティバーパイプ、打楽器、リコーダー 氏家厚文

ラウデージ合唱隊 市川摩里子

鈴木綾

上出朝子

名倉亜矢子

松田喜久子

遠田さゆり

熊谷淳子

山中真佐子

村松勝久

渡辺和之

市川克美

佐藤喜義

高久桂

特別出演 望月裕央 (テノール)

子ども合唱団ピッコリーニ

(名倉亜矢子指導)

曲

モンセラートの朱い本全曲

カンティガ

モサラベ聖歌

ビクトリア

他